

2020年10月11日～17日 各家庭でのディボーション用テキスト

[おお イエスよ われは約せり]

おお イエスよ われは約せり
終わりまで 仕えんことを
わが君 わが友よ
永久に わがかたえにいましたまえ
君なる方 わがかたえにいまさば
戦いありとも などで恐るべき
君もしわれを導きたまわば
正しき道より 迷うことあらじ

世のわれに迫りきたるとき
わが君の近くいますと 知らしめたまえ
この世のきらめき わが目をくらませ
いざないの声 わが耳を奪う
わが敵は近くにあり

わが周囲にも わがうちにも
されど イエスよ 近くいまして
わがたましいを 罪より守りたまえ

おお イエスよ 君は約したまえり
君に従えるすべての者に
君の住みたもう栄えのうちに
君に仕えるしもべもおらんと
イエスよ われも約せり
終わりまで仕えんことを
おお わが友なる君イエスよ
恵みによりて 従わしめたまえ

ジョン・E・ボード

■決断の訓練（前編）

私たちは……私たちの神、主の御声に聞き従います。（エレミヤ 42:6）

あなたは、いま人生の一つの岐路に立っていて、右に行くべきか左に行くべきか迷っているかもしれない。きょう、あるいは遅くてもあすには決断を下さなければならない問題があるかもしれない。それは、取るに足りない小さな決断であるかもしれない。しかしあなたは、その結果が重大であることを、直観的に感じている。あなたがこれと同じ岐路に再び戻って来ることはないであろう。というのは、きょう下す決断によって、あすはきょうとは異なったものになってしまうからである。そこであなたは、自分の知恵よりも高い知恵の必要を感じず。すべての物事を初めから終わりまで知っておられる方の導き、満ち足りた恵み、決して裏切ることのない忠実さを、切に求めることであろう。人生における大きな問題というものは、一見して重要でないと思われるような、ふとした選択の結果である。こうしたことが、大きな危機を招くのである。

聖書の各書には、神に信頼するキリスト者には導きを与えられるというお約束が、豊富に盛られている。至高者なる神は言われる。「わたしは、あなたがたに悟りを与え、行くべき道を教えよう。わたしはあなたがたに目を留めて、助言を与えよう」（詩篇 32:8）。「主は貧しい者を公義に導き、貧しい者にご自身の道を教えら

れる」(詩篇 25:9)。このような神のお約束は、ほかにも無数にある。ここではエレミヤ書 42 章にある出来事を取り上げ、神はどのようなときに導きを与えてくださるかを考えたいと思う。

この出来事から、決断の訓練に必要な三つの重要な要素を学ぶことができる。

1 快く神の導きを求めること

エルサレムにいた残りの者たちは、エレミヤのところに来て願った。「私たちのため、この残った者みなのために、あなたの神、主に、祈ってください。……あなたの神、主が、私たちの歩むべき道と、なすべきことを私たちに教えてください」(2, 3 節)。この点について、私たちはこのみことばを覚えなければならない。「あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます」(ヤコブ 1:5)。多くの人々は、神が正しく導いてくださることを求めて祈った。モーセは紅海で、ヨシュアはヨルダン川を渡るとき、ルツはベツレヘムの村で、ダビデは荒野で、ネヘミヤは王の宮殿で、エレミヤは牢獄で、ペテロは屋上で、そしてパウロは荒れ狂う波間の舟の上で祈った。彼らはみな、導き手なる方に祈り、行くべき道を示していただいた。

快く求めるということの中には、私たちの側においては全く正直に願いを申し上げ、また真実であられる神に全く信頼しなければならない、という意味が含まれる。私たちは進んでこう言わなければならない。「私たちは良くても悪くても、……私たちの神、主の御声に聞き従います。私たちが私たちの神、主の御声に聞き従ってしあわせを得るためです」(エレミヤ 42:6)。私たちの目は近視的で遠くを見通すことができないので、それがついには私たちの利益になるのか命取りになるのかわからない。それゆえ、選択はすべて神にお任せすべきである。私たちは詩篇記者と同じ心で言わなければならない。「私は、主であられる神の仰せを聞きたい。主は、御民と聖徒たちとに平和を告げ」と(詩篇 85:8)。求めるときには「ただし、少しも疑わずに、信じて願いなさい。疑う人は、風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです」(ヤコブ 1:6)。導きを求めるからには、神は約束されたことを必ず成就してくださると確信して、すべてを任せ切ってしまうことがたいせつである。

(次回に続く)